



ふうの木のある学校からⅡ

高鍋町立高鍋西小学校 学校だより 2月② 文責 校長

花を摘む

職員室や校長室が入る棟の前には、花壇や植木鉢に、たくさんの花が育てられています。

植物を育てる活動は、環境教育のみならず情操教育の観点からも有効とされています。

現在植えられている花は、寒さに強く、ひと晩のうちにすぐ花を付けます。春先にきれいな花を咲かせるには、そういった花を摘み取る作業が必要です。

当初は、6年生がボランティア活動の一環で毎朝取り組んでいましたが、最近は他の学年の子どもたちも手伝っています。

寒いけど、素敵な笑顔に遭遇できる時間です。

自分の名前

「宿題プリントをする」、「テストをする」、「作文を書く」、「何らかの書類を作成する」時に必ず記入するのが「名前」。

日頃、教室を巡回する際には、先生方の指導の様子や、子ども達の姿勢や鉛筆の持ち方なども観察しています。

この時期は、復習プリントやワークシートを活用しての活動が多いのですが、名前が雑に扱われているプリント類を見ることがあります。

昭和流だと「その場で、即書き直し！」ですが学習のねらいが優先？・・・。

保護者の方の様々な願いや思いが込められた名前。これから一生使っていく名前。「名前をていねいに書くことは、自分を大切にすること」という考え方は、古い？

撤去工事終了

先日から、お知らせしていましたがPTA会議室の撤去工事が終了しました。

私も10数年前の保護者。

家庭教育学級で花づくりを学んだり、ふうの木祭りの準備・片付け等で夜な夜なお世話になったことが記憶に残っています。

工事が終了し何もない状態です。

雨が降ったら、どんなふうになるだろうか？

死角になるスペースなので、変なたまり場になりはしないか？

子どもたちや地域のために有益なスペースにできないか（例えば、避難物資の保管庫設置）？等々、と思いを巡らしているところです。

ふうのき祭り

2月15日（日）。

年度末の参観日ということで、総合的な学習の時間で学んだことを発表したり、1年間の歩みを振り返って作文発表したりするなど、各学年で工夫を凝らした授業を公開しました。

懇談においては、学力調査のこと、春休みや次学年に向けての心構えが話し合われたことと思います。

下校指導後は、ふうのき祭り。キッチンカー販売や輪投げの当てゲーム、5年生のお米販売等が行われました。昨年度の反省を活かした運営のおかげで、スムーズな活動になりました。

ご協力いただいた保護者の皆さん、役員の方々、ありがとうございました。

学級閉鎖や学年閉鎖の目的

- ① インフルエンザなどの感染症流行から、子ども達の健康を守る。(感染防止)
- ② 感染している子ども達の回復時間を確保し、感染していない子ども達への感染拡大を防ぐ。

インフルエンザ A 型が流行したかと思ったら今度は B 型、そしてこの春先は、花粉症も・・・といった具合に、気を付けていても体調を崩しやすいシーズンとなっています。

学校では、毎日の健康観察結果をチェックし、欠席者数・り患の状況を確認したり、学校医のアドバイスをいただいたりしながら、閉鎖期間等の判断をしています。

学級児童数の3分の1程度の欠席者数が判断基準のひとつとしています。

閉鎖期間中は、自宅待機し外出は控えます。

子どもさんが感染していない場合も、発熱等の症状が出る可能性があるため、外出はできません。

今シーズンは、学級閉鎖をしてから諸症状を訴え、病院受診をして感染が発覚したというケースもありました。

(※ この場合、すぐ学校へ連絡してください。感染者が増え、閉鎖期間の延長を検討するためです。)

数年前、世界中で新型コロナウイルス感染症が広がっていた時、1週間とか1ヶ月といった単位で学年・学級閉鎖したり、学校全体が休業状態になったりしたこともありました。

共働き等の事情で、家庭に子どもさんだけ残すわけにはいかず、やむなく仕事を休んだご家庭や、当てにしていた祖父母が感染してしまい、預けられなくなったため、日頃から交流のあるご家庭に預かってもらったご家庭等々、様々な対応の仕方を見聞きしたことを思い出します。

感染症にかからないことが一番ですが、感染したら？学級学年閉鎖になったら？といったことも、話し合われておくともよいかもしれません。

「控える」「遠慮する」

日本語には、柔らかく断ったり、「禁止」の意味を伝えたりする表現の仕方があります。

いわゆる「オブラートに包んだような表現」で、相手の気持ちを察することができる日本文化のよさを象徴するものです。

一方では、欧米の方々からすると、曖昧でわかりにくい表現とも指摘されるところですね。

皆さんは「～はできません」「～を禁止します」といった表現と、「～は好ましくありません」「～はお控えください」「～はご遠慮ください」という表現、どちらが受け取りやすいですか？

これから世界を相手にしていく子ども達には、両方を身に付けておくべきなのかも？

ケースバイケースで、そういった表現を使用したり理解できたりする器用さがあると、人としての幅が広がるような気がします。

「金・銀・銅」メダルの前に

冬季オリンピックが、ミラノ・コルティナで行われました。

イタリア国内で、スキー・スケート・スノーボード・カーリング等の競技が実施され、閉幕しました。

オリンピックに出場するためには、国内予選を通過したり、国際大会で実績を作ったりしなければなりません。

コンマ何秒かの差、ミリ単位の違い、一つのミスが結果に影響する厳しい世界。

でも、競技後の選手インタビューから聞こえてくる第一声は、必ずといっていいほど「感謝」の言葉です。「支えられ、応援されている」ことの自覚から、自然と出てくるのだろうと想像しています。

学校や家庭でも「支えられ、応援されている」ことを、子ども達が実感できる場や時間を工夫できないか？考えてみるよい機会かもしれません。